

ウォーレン・バフェット成功の名語録

～世界が尊敬する実業家103の言葉から～

桑原晃弥 PHPビジネス新書

ウォーレン・バフェットはほとんど神がかりと云える成功投資家だ。11歳で初めて株式を購入、14歳で農地を購入し農場経営を経験し21歳でコロンビア大学大学院修了。

26歳で推定資産14万ドル、バフェット社設立35歳、バークシャー・ハザウェイの経営権取得36歳資産440万ドル、49歳資産6億24百万ドル、55歳バークシャー・ハザウェイ投資会社に、73歳資産429億ドル、76歳資産の85%を慈善団体に寄付と発表、78歳フォーブス400で1位になる資産620億ドル。

{ バフェットの銘柄選定三つの指標 }

- ① 長期保有～全ての基本・短期勝負はギャンブルであって投資ではない
- ② 集中投資～分散投資でリスクは回避できない
- ③ 事業を見る～株価だけに左右されない、10年・50年経っても欲しいとみんなが思うものを作っているか

{ もし私が日本で若い技術者だったら }

～私は間違いなくこの会社で働きたいと思います～2011年福島のある工具メーカーの新工場完成式典に参加、同社に投資した理由を「日本の物づくりの優位性は一朝一夕に揺らぐものではない・同社の設備の見事さと社員の優秀さを称賛」

{ 喜んで10年間株を持ち続ける }

そういう気持ちがないなら、たった10分間でも株を持つと等と考えるべきですらない。農場を買おうとするときに毎日その値段ばかり見る人はいません、買値に対してどれ位の生産高が見込まれるかというところを見るでしょう、株式投資もそれと同じです。

来週抽選が行われる宝くじと少しずつ金持ちになれるチャンス、人は多分前者の方に可能性を感じてしまうでしょう。

成功は飛び越えられるであろう30cm のハードルを探すことに精を傾けたからであって、2m のハードルをクリア出来る能力があったと云う事ではない、自分がよく知り先行きも見えやすいビジネスに投資すべきだ。

価値が83百万ドルの事業を80百万ドルで買おうとしてはいけません、大きな余裕を見ることが肝要なのです。

困難なビジネスにおいては一つの問題が片付く前に

P 1

次に問題が起きるものです、台所にゴキブリが一匹いれば他にも沢山いる。

{ 76歳の今でも19歳の時に読んだ本の考え方を実践します }

1949年「賢明なる投資家」に出会った時はまるで神を発見したように熱狂した・・・
著者のグレアムがコロンビア大学で教えていると知り、授業の始まる1ヶ月前で締め切りが過ぎていたにも拘らず手紙を書き面接抜きで入学を認めてもらっている。
以来独自の「バフェット流」を確立する中で「株券でなく事業を買う」「価額と価値の差を見極める」と云ったグレアムの原理原則は忠実に守っている。

{ ビジネスの世界で最も危険な言葉は「他の誰もがやっている」 }

リスクとは自分が何をやっているかよくわからない時に起きるものです。危機に際して現金に勇気が加わると、その先は計り知れない。
2000年ITバブルが弾けた時「価額と価値の差を見る」バフェットはここぞとばかり割安となった優良企業を次々と買収した、マスコミが危機をあおり、ウォール街で悲観論が支配しようが、チャンスに変えることが出来る。

{ 何故自分は現在の価格でこの会社を買収するのか }

～という題で1本の小論文も書けけないようなら100株でも買うことはやめた方がいい。
投資の負け組のクセは「あの人が推薦したから」「株価が上がっていたのに」だ。
それは投資の理由にならない、自分で考えた確固たる理由を持ち周囲の声や株価など気にせず進むのが勝つコツだ、独力で考えなかったら成功しない。

{ 投資で勝つための必須能力 }

- ① 財務会計や簿記の知識～企業活動を知り財務諸表を読みこなす力は不可欠
- ② ある程度の情熱
- ③ 辛抱強さ
- ④ 冷静さ ③ と ④ は特に大事

過去の業績がどんなに素晴らしい者であっても変化に何ら対応しないであれば待っているのは破綻。

失敗事例～USエア株を長年の高収益を根拠に買ったが**その収益は規制によってもたらされたものである**ことをバフェットは見逃していた。

{ 最も尊敬する人のもとで働きなさい }

2002年頃から学生相手に積極的に話すようになりハーバード大学でアドバイスしたところ多くの学生が自分でビジネスを始めると云いだしたほど、人生の深みから語られるバフェットの教訓は心に響く。

バフェットは猛烈な読書家としても知られている、手あたり次第関心のある本を全て繰り返し読むのがバフェット流、投資は力仕事ではない人一倍読み考えなくてはならぬ。

IBMのアンニュアルレポートをこの50年間読んでIBMが競争力を将来も持続することに思い至った～関心のある企業をズーと追いつける、そして買い得な水準になれば一気に動き出す、これが情報の生かし方。

最も重要なことは自分の**能力の輪をどれだけ大きくするかではなく、その輪の限界をどこまで厳密に決めるか**です。

どんなことであれ自分が本当の意味で理解していたなら他人が理解できるように表現できる、もし理解できなかつたら書き方が悪いかもしれないと。

{ 本当に重要な事だけを選ぶ }

重要な事以外はノーと断ることも大切、バフェットからビルゲイツが受けた最良のアドバイス、当時のビルゲイツは超多忙で山ほど会議に出席、1日百万通とも云われるメールの山の処理・必要なら返事も、一年の四分の一は海外、年に二週間だけ取れる休暇が唯一の「考える時間」だった。

一方バフェットは会議にはほとんど出ず電話も数本のみ、メールも使わない「考える時間」は年に50週、その贅沢な時間がバフェットの優れた決断力の源、二人は年の離れた友人同志としてお互いに信頼し合っている。

バフェットの決断は早い、ノーとなれば相手が説明の途中でも言い渡し「イエス」の決断も5分ですぐさま行動に移す、そうしてお互いの時間を大切にする。

やる必要のない仕事は上手にやったところで意味はない、バフェットは自分と一人のアシスタントで他社なら100人以上で運用する大きな資金を運用していた、1年に一度賢明な決断をすれば良いとする、賢明な決断に値しない案件に時間をかけない。

{ ニューオリンズの堤防改善はハリケーンが来る前でなければならない }

2002年デリバティブの危険性を理解するバフェットは経営陣を刷新、保有するポジションを全て処分し部門を廃止した、一方世界に広がるデリバティブは放置され2007年のサブプライムローン問題につながった。

バフェットにとってコストの削減は朝起きて顔を洗うようなものバークシャー・ハザウェイの経費は同業他社に比べ250分の一。

{ 事業の多角化は無恥を隠す一つの手段 }

自分が手掛けるビジネスをきちんと理解していれば多角化等は無意味に思えるはず。企業の合併・買収の世界では病んでいる馬も三冠馬として売られる、簡単に儲かりそうな話は何時だってそんな危険が潜んでいる。

{ ソロモン・ブラザーズとバフェット }

ウォール街の帝王として君臨した投資銀行ソロモン・ブラザーズが倒産の危機に直面、その原因は国債部門責任者の不正、大株主のバフェットにとって大きな賭けだったが暫定会長を引き受けた。必要なのは包み隠さず話し二度と不正が起きない体制を作り企業文化を変える事～それらを時間は惜しまず150人もの怒れる報道陣に打ち明けた～ソロモンの新社長にはキチンとした職業倫理を備えていて会長である私に相談すべき事と下で解決すべきことを区別できる人間、悪い知らせをキチンと伝えられる人間。～問題の発覚2年後には早くも最高益を更新。

{ 私は学生に人生で一番重要な仕事は子供を育てる事だと云っている }

バフェットの子育ては妻に任せきりだったが大金持ちの子供として甘やかさないようにすることを心掛けた、親の元で子供たちは日々世界について学んでいますと。

{ 愛を得るには愛される人でなければならない }

愛は与えれば与えるほど貰えるものだ！

{ 優秀なマネージャーは大変貴重な存在 }

傘下のファニチャー・マートの「ミセスB」ことローズ・ブラムキンが94歳になった時にバフェットは彼女の為に100歳定年を撤回した、バフェット自身は1930年生まれでも引退など更々考えてなくて～米国一の長寿になろうかと～

{ 幸運な1%として生まれた人は残り99%の人の事を考える義務がある }

バフェットは米国の税制の不公平を正すべきだと新聞に自らの考えを発表、金持ちはずっと高い税率を課せられるべきだと。

{ 今から20年後、何十年の歴史を持つ一流会社の所有者が会社を売る

必要に迫られた時、真っ先に売却先としてバークシャー・ハザウェイを思い

ついてくれたら嬉しいというのが私の希望です }

バークシャー・ハザウェイは1888年繊維工場を立ち上げたのがスタート、バフェットが同社株を買い始めたのは1962年～半世紀をかけて滅びゆく繊維会社が世界有数の投資会社に・・・

以上